

熱中症による救急搬送の状況及び予防啓発の取組について

救急企画室

1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っており、調査開始以降最多の救急搬送人員を記録した平成30年には全国で約9万人以上の方が熱中症により救急搬送されています。調査については、通例5月1日を含む週の月曜日から開始しています。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況等に鑑み、調査の開始を6月へ延期していましたが、今年度の調査については、通例どおり、令和3年4月26日から開始し、8月8日までに36,469人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送されました。

昨年度と比較(6月1日から8月8日)すると、12,773人(+58.1%)の増加となりました。今後も熱中症に対する予防が必要であり、住民の皆様への熱中症に対する関心を更に高めるため、

あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行っていくことが重要であることから、今年度の熱中症による救急搬送状況や熱中症予防啓発の取組についてお伝えします。

2 熱中症による救急搬送状況

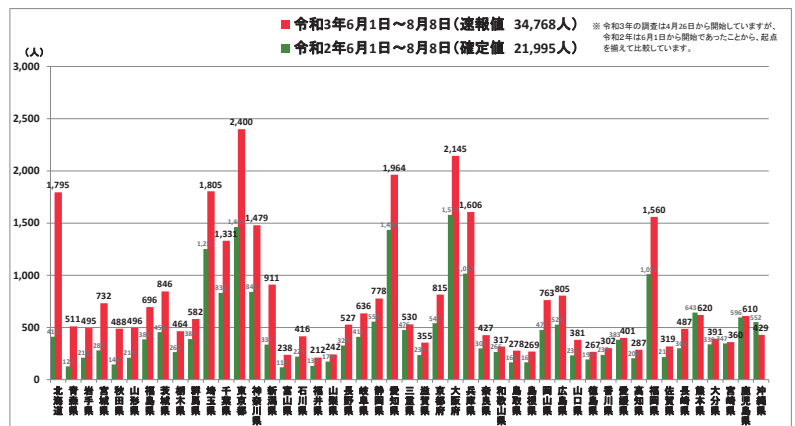
① 都道府県別の合計(図1)

6月1日から8月8日までの熱中症による救急搬送人員の合計34,768人のうち、東京都が2,400人と最も多く、次いで大阪府2,145人、愛知県1,964人、埼玉県1,805人、北海道1,795人となっています。

② 週別の推移(図2)

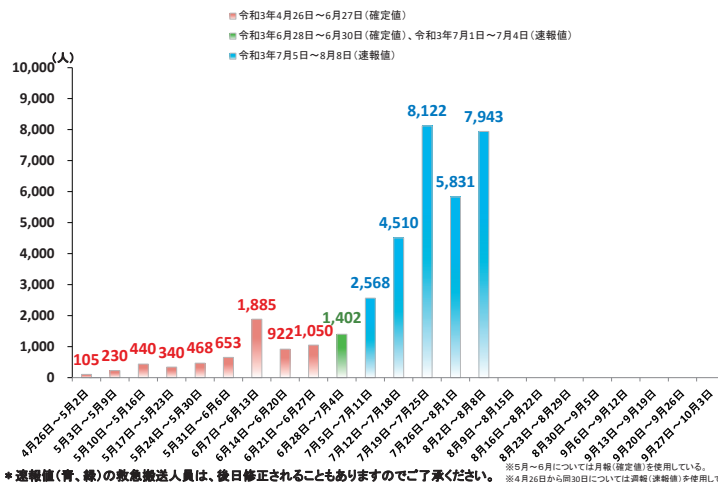
救急搬送人員は4月26日から100～1000人前後で推移していましたが、7月5日の週から2,000人以上に増加しています。また、7月12日の週から4,000人を超えて推移しています。

図1 令和3年 都道府県別熱中症による救急搬送人員 合計搬送人員 前年との比較(6月1日から8月8日)



*速報値(赤)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

図2 令和3年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)



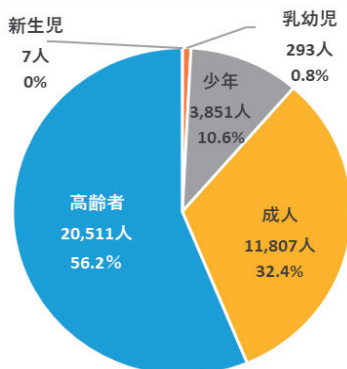
*速報値(青、緑)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。
 ※5月～6月については月報(確定値)を使用している。
 ※4月26日から8月30日については週報(速報値)を使用している。

③ 年齢区分別の救急搬送（図3）

4月26日から8月8日までの熱中症による救急搬送人員の合計36,469人のうち、高齢者が20,511人（56.2%）と最も多く、次いで成人11,807人（32.4%）、少年3,851人（10.6%）などとなっています。約6割を占める高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

図3 年齢区分別（構成比）

令和3年 総搬送人員36,469人



凡例

新生児：生後28日未満の者
乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
少年：満7歳以上満18歳未満の者
成人：満18歳以上満65歳未満の者
高齢者：満65歳以上の者

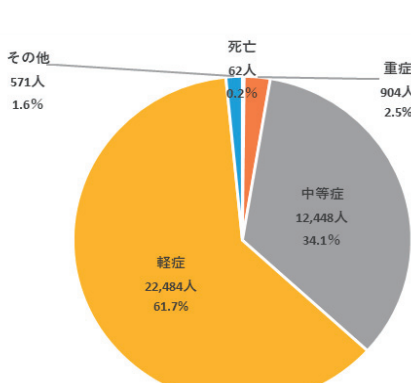
※掲載処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

④ 傷病程度別の救急搬送人員（図4）

4月26日から8月8日までの熱中症による救急搬送人員の合計36,469人のうち、軽症が22,484人（61.7%）と最も多く、次いで中等症12,448人（34.1%）、重症904人（2.5%）、死亡62人（0.2%）などになっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

図4 傷病程度別（構成比）

令和3年 総搬送人員36,469人



凡例

死亡 初診時に死亡が確認されたもの
重症 傷病の程度が3週間（長期入院）以上の入院加療を必要とするもの
中等症 傷病の程度が重症または軽症以外のもの
軽症 傷病の程度が入院加療を必要としないもの
その他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

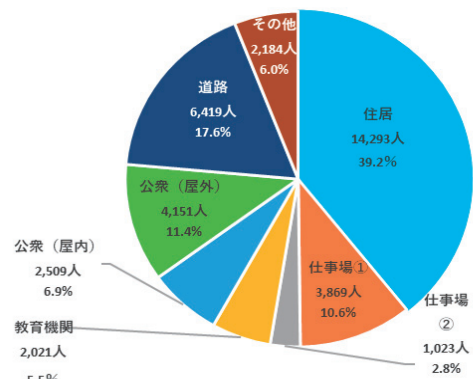
※掲載処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

⑤ 発生場所別の救急搬送人員（図5）

4月26日から8月8日までの熱中症による救急搬送人員の合計36,469人のうち、住居が14,293人（39.2%）と最も多く、次いで道路6,419人（17.6%）、公衆出入場所（屋外）4,151人（11.4%）、仕事場①3,869人（10.6%）、公衆出入場所（屋内）2,509人（6.9%）などになっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。

図5 発生場所別（構成比）

令和3年 総搬送人員36,469人



※掲載処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

凡例

住居（敷地内全ての場所を含む）
仕事場①（道路工事現場、工場、作業所等）
仕事場②（田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ）
教育機関（幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等）
公衆（屋内）不特定者が出入りする場所の屋内部分（劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅（地下ホーム）等）
公衆（屋外）不特定者が出入りする場所の屋外部分（競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅（野外ホーム）等）
道路（一般道路、歩道、有料道路、高速道路等）
その他（上記に該当しない項目）

3 全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防広報の実施

消防庁では、熱中症予防啓発として従来から、熱中症による救急搬送人員の調査と公表、「リーフレット」や「ポスター」の作成、消防庁ホームページやツイッターによる情報発信などを通じ、住民の皆様幅広く注意喚起を図るとともに、全国の消防本部が行う予防啓発活動を支援してきました。

こうした中、昨年に引き続き、社会全体として新型コロナウイルス感染症に留意した対応が必要であり、熱中症予防対策についても、新型コロナウイルス感染症を考慮した「新しい生活様式」と両立させた行動が求められています。

そこで、こうした観点に留意した上で、全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防啓発をテーマとする動画を、7月13日より、消防庁ホームページにて公開するとともに、全国の消防本部へこの動画を活用し、熱中症予防啓発の強化に取り組むよう呼びかけています。



4 熱中症予防のポイント

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、従前からの予防に加え、「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントとして、以下の項目に心がけましょう。

- ・屋外で人と2m以上離れている時はマスクを外しましょう（ウイルス感染対策は忘れずに）。
- ・涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- ・のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう。
- ・部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。また、こまめに換気をしましょう。
- ・熱中症警戒アラート発令中は外出をできるだけ控え暑さを避けましょう。

【参考】令和3年度熱中症予防情報サイト 普及啓発資料（環境省）

https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php

5 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めていきます。

消防庁熱中症情報

https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

問合わせ先

消防庁救急企画室
TEL: 03-5253-7529